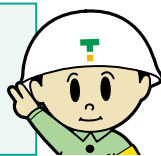


検査員の現場報告1



ブレーカーは投入しているけど、電気が点かない！

釜石事業所 山田 健太

目視で、ブレーカーが投入しているとの思い込みから、すぐに発見出来なかった事例をご紹介します。

〔状況〕

ある夏の夕方、「外灯が点かないので調査してほしい」と事業所に電話連絡があり、お客さまに向いました。

〔調査〕

20分後に到着すると、確かに外灯が点いていません。事務所を訪問し、お客さまに詳細を確認したところ「外灯がいつもの時間に点かず、外灯ブレーカーが開放している箇所は見つけれなかった」とのお話がありました。まず、事務所内にある分電盤を確認しました。ブレーカーの投入状況を目視で確認しましたが、一見ブレーカーがトリップしている（「切」になっている）箇所はなく、予備ブレーカー以外投入されているようでした。何か違う原因で点かないのかと思い、ポケットテスターで主幹ブレーカーの電圧を測定しましたが、電圧は異常ありません。次に、分電盤内にあるタイマーを確認したところ、タイマーの時間は合っていて、正常に動作していました。なぜ、外灯が点かないか原因がわかりません。暗くなってきて、お客さまも困っているだろうとあせり始めました。もう一度、落ち着いてブレーカーの投入状況を確認したところ、外灯回路の漏電ブレーカーがトリップしていることに気づきました。分電盤内のブレーカーにテープが貼ってあり、内扉で固定していたため、実際ブレーカーはトリップしていましたが、投入しているように見えてすぐに発見できませんでした。

〔原因〕

当日は湿気が多く、一時的な漏電により外灯回路の漏電ブレーカーが動作したと推測されます。ブレーカーにテープを貼っていたためツマミが切になっているのがわからず、目視では投入されているように見えました。

〔復旧〕

外灯回路の低圧絶縁抵抗測定及び外灯の外観点検を行い、異常がないことを確認しブレーカーを投入、外灯が点灯したことを確認し復旧しました。



〔お客さまの声〕

「私も確認したのですが、まさかブレーカーがトリップしていたとは思いませんでした。外灯が点かず困っていたところ、迅速に対応していただきありがとうございました。外灯が点いてよかった」と感謝の言葉をいただきました。

〔まとめ〕

今回の事例では、ブレーカーは投入されているものという思い込みで、最初の目視のときにテープの下まで確認せず、安易に見過ごしてしまいました。一つひとつ確認しながら、現状をよくみて柔軟に原因究明することが大事だと改めて痛感しました。お客さまからは、ブレーカーを誤って開放しないようテープで固定していたが、今後は、内扉に開放禁止の表示をするとのお話がありました。他のお客さまでも、分電盤のブレーカーをテープで固定していた際は、今回の経験を事故の未然防止や早期発見に活かしたいと思います。



原因箇所の分電盤（切れていたブレーカー）